

福神金大帳
純々喜和博作
全

新
福神金大帳
上



寛政十二年

へ13
2946
180



2946
180

天地人の三階さんかいの一本いっぽんといふは、かたまたま乃落なりおち
 發はつと春風はるかぜ東あづま乃枝えを備そなへとば、こゝろ鶏とり
 とあつたふ。初日はつひの出いでの紅隈べにがきに、松まつと竹たけの並ならびひ
 大名だいみょういづも、大牟丸おほむま仕切場しきりばと越こへざらんや、梅うめり
 きねこの葺ふり、特とくくめ糸いと拵しなり、ま屋やの幕まくらも
 明あきの方かた。服ふく相あひ言ことの福神ふくしんを、古事ここと本ほん附つけ曾そ我がみ
 志しをこふは、このを半はん枯こ不ふ思して、中なかをこりと志しふ

寛政十二申かんせいじふにのさる乃なりる春はる 鈍どん亭てい和わ樽そん著しやく



とてふにまめのまゝ
あはれにばすけり
のやまをこまへ
うらみのゆゑ
おひたす
まがをせうと
たひやくと
まごのり

百三二
の百三二
の百三二

の百三二
の百三二
の百三二

の百三二
の百三二
の百三二

の百三二
の百三二
の百三二



おののこの
かきかた
おののこの
かきかた

おののこの
かきかた
おののこの
かきかた

おののこの
かきかた
おののこの
かきかた

おののこの
かきかた
おののこの
かきかた

おののこの
かきかた
おののこの
かきかた

おののこの
かきかた
おののこの
かきかた



おののこの
かきかた
おののこの
かきかた

